

明治150年記念 後世に伝えたい山口県ゆかりの人物等

研究支援事業審査委員会委員による講評③

1 三宅紹宣 広島大学名誉教授

非常に緻密で最先端の研究を切り拓かれ、立派な成果を上げられたと思います。最終的に軍をいかに強化するかは人に在り、という認識は、両者に共通してありました。強い立派な国民がいるところは、軍隊・国民軍が強いということをヨーロッパで確認したことが、建白書の中に現れていると思いながら聞かせてもらいました。

幕末の長州藩の諸隊は、軍事集団と言いつつも教育集団としての側面も持っていました。諸隊では一日のうち半分は教育を行うなど、教養教育を重視しているのが非常に印象に残っています。教育がしっかりしているから、少数でも幕府の大軍に対処できたのです。おそらく山田もそのことが分かっていたのではないのでしょうか。

本日の発表は世界史的な観点から、ヨーロッパにおいて様々な国民・軍を観察して、どうしたら強い軍隊が作れるかという建白を行うまでの経緯を明らかにされ、その点の最先端を切り拓かれた大変立派な研究であると思います。

2 稲益あゆみ 下関市立歴史博物館学芸員

今回の研究では、今まで注目されていなかった人物等に注目され、さらに、未発表の資料から、ヨーロッパ滞在中の山田顕義の行動や、そこで受けた影響を明らかにされ、今後の研究を深める成果を挙げられました。今日の発表の時間は短かったですが、論文の中には渡欧中の山田顕義が見聞きしたものなどが詳細に記されており、大変勉強になりました。ありがとうございました。